



# えどがわボランティアセンターだより

出会い

ふれ合い

助け合い

令和3年12月発行  
第51号

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【発行】

公益財団法人えどがわボランティアセンター  
〒132-0031 江戸川区松島1-38-1

電話:03-5662-7671 FAX:03-3653-0740

江戸川区は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現に向けてSDGsに積極的に取り組んでいます。

ここでも  
ボランティア

## 江戸川消防少年団

台風被害への備えとして「アシスト瓦」をセンターに提供!



江戸川消防少年団は、江戸川消防署区域の小学生から高校生までで構成され、月1回活動をしています。今年の夏はコロナ禍でもあり、アシスト瓦を作製しました。これは、区内外の風水害被害に備えると同時に、江戸川区や少年団が進めるSDGsの目標の「11.住み続けられるまちづくりを」にも一致します。また、瓦には風水害で被災した人たちを励ましたいとの思いを込めて、メッセージやイラストが描かれました。

アシスト瓦は被災地域での応急措置として自衛隊や専門ボランティアの方々が利用します。今回は、江戸川区で災害ボランティアセンターを担当する当センターに、約200枚が提供されました。

10月23日(土)にグリーンパレスで瓦の引き渡し式が行われました。センターでは早速、グリーンパレス内の事務所の入り口に展示して区内外で希望する方々にお分けし、役立てることにしました。

### 【アシスト瓦とは】



完成したアシスト瓦の一部

被災した瓦の復旧は、ブルーシートを張ることが一般的でした。平成30年大阪北部地震の際、30センチ四方のダンボールに防水シートを巻き、防水テープで止めるという、誰でも簡単に作れるアシスト瓦が考案されました。

一人の活動から始まり、口コミで全国に広まりました。令和元年の台風15号で房総半島が大きな被害を受けたときに、全国から4,000枚のアシスト瓦が寄せられ、復旧に貢献しました。



アシスト瓦作製の様子

200枚の瓦を前に、左から、江戸川消防署地域防災担当課長の今井さん、江戸川消防少年団長の伊藤さん、えどがわボランティアセンター山本理事、江戸川消防少年団員(中学生)の高橋さん、滝沢さん、藤井さん



山本理事から少年団へ、お礼の言葉と質問がありました。

理事「一人何枚ぐらい作ったんですか？」  
少年団「一人5枚ずつ、40人で作りました。」  
理事「完成した瓦に水がけてみた？」  
少年団「はい。見事に水をはじきました。被災地で使ってもらえたらうれしいです。」



\*\*\* 江戸川区内の葛西消防署、小岩消防署にも、それぞれ消防少年団があり、応急救護訓練や消火器取り扱い訓練など、様々な活動を行っています。\*\*\*

問合せ先

(公財)えどがわボランティアセンター

03(5662)7671





